結核ノ「アウトインムニゲーン」ノ效果（第一報）

住吉内科病院長
醫學博士　住吉彌太郎

目次

第一章　肺結核ノ「アウトインムニゲーン」ノ臨牀的觀察
一項　緒言
二項　豫備實驗
三項　「アウトインムニゲーン」ノ製法
四項　注射部位及用量
五項　「アウトインムニゲーン」ノ人體ニ及ボス影響
A　局所反應
B　全身反應
C　體重增加
D　他覺的變化
F　ソノ他
六項　各個人ノ例證ニ就テ
七項　考察
八項　總括

一　緒言

戰場ニモ優ル結核症ノ蔓延ハ二十世紀ノ文化進運ト共ニ益〻其ノ暴威ヲ逞フシ各國擧ゲテ之ガ絶滅ヲ計ルモ結果ハ反ツテ級數的ノ增加ヲ來シ寒心ニ堪ヘザルモノアルヲ如何ニセン。

蓋シ結核ニ對スル治療ハローベルト、コッホ氏ノ結核菌發見ト「ツベルクリン」創製ニ依ツテ期劃的ノ治療法ヲ案出シ、一面血清學的療法モ亦驚異的進歩ヲ遂ゲ、種痘法ノ豫防上ニ於ケル「ヂフテリー」血清ノ治療上ニ於ケル殆ンド絶對的ノ卓效ヲ奏スルニ至リ醫界ノ視聽ハ翕然トシテ此ノ方面ニ集リ、萬物悉ク之レニ依ツテ征服セントノ勢猛然ト各種ノ血清、「ワクチン」數日ヲ亞イデ現ハレ、總テノ疾患モ之ニ依テ解決セラレントノ概アリシニ、何ンゾ圖ラン、其ノ後僅カニ數例ヲ除イテ殆ド其ノ價値ナキヲ展開セラレ、流石脱兎ノ如キ初メノ意氣ハ終ニ處女ノ如ク一般ノ期待ニ背キタリ。

由來結核ニ對スル治療法ニハ古來特效藥ト稱サル、モノ坊間ニ枚擧スル遑アラズ、之レ逆ニ一ノ特效藥ノ存セザルヲ裏書スルモノニ非ズヤ。

最近肺結核ノ外科的療法ハ相當ノ成績ヲ奏シ殊ニ人工氣胸療法ニ至ツテハソノ操作簡單ニシテ效果著明ナルモ凡テノ肺結核ニハ行ヒ得ルモノニハ非ズ、ソノ他ノ一般治療法トシテハ所謂「マストクール」ヲ合理的ニ行ヒ他方精神的方面ノ安心ニ多クヲ期待スルノ現狀ニアリ。然ラバ「ワクチン」方面ノ頓挫ハ如何ナル理由ニ依ルカ、殊ニ結核ニ對シテハ既ニ結核ノ處女地ト馴地トノ差ヲ生ジタルハ言外自然ノ免疫性アルヲ物語ルモノニ非ズシテ何ゾヤ。

現今世上ニ上ル細菌製劑ニカルメット博士ノ「BCG」、佐多博士ノ乾燥粉末結核菌、大阪有馬博士ノ「AO」、鳥潟博士ノ「コクチゲン」、額田博士ノ「ヘテロインムニゲーン」等存ス、近藤乾郎博士ノ言ニヨレバ(治療及處方第十二卷一三一號)AOハ既ニ我國學界ニ於テモ定評アリ問題トスルニ足ラズトナシ又最近獨逸學會ノ一部デAOノ效果ヲ云々スルモノアルガ之レ亦顧慮スルニ足ラズ、只佐多・鳥潟兩氏ノモノハ將來ノ問題タラント云ヘリ。吾人ハ既ニ是等ノ療法ニ嫌厭タルキノデ恒ニ優秀ナル療法ノ出現ヲ待ツコト多シ。

余ハ既ニ一九二三年維也納學會ニ於テ住吉氏結核菌純粹培養法ヲ發表シ次デ Zeitschrift. für Tuberculose Bd. 39 H. 5, Bd. 40 H. 5 及本誌第三卷第一號ニ於テ同樣成績ノ發表ヲナシ人型結核菌トハ決シテ一種類ノ菌ニ非ズ、尚多數ニ分類セザル可カラザルベシト主張シ、結核菌ノ色素分泌ノ模樣ノ差異、菌集落ノ形體ノ變化、鏡見上ノ形態及ビ變化及ビ結核菌毒素ノ强弱等ニヨリ約二十粒ニ分類セリ、之ヲ贊スル人ニ Löwenstein, Suranzi u. Putnoky 氏等アリ、後者ハ余ノ方法ヲ追試シテ結論ニ曰ク「住吉氏法ハ安價ニテ確實ナル結核診斷法ナリ、不足ナル動物實驗ヲ驅逐ス可シ、更ニ之ニ依テ結核菌ノ培養上ノ性質ヲ多クノ材料ニヨリ試驗シテ吾人ノ經驗ヲ豐ニス可ク更ニ自家「ワクチン」療法ノ門戸ヲ開放ス可シトナセリ。

茲ニ余ハ結核菌ノ自家免疫元ハ研究ニ著手スルハ合理的ナルコトヲ深ク腦裡ニ印象セリ。

此ノ結核菌ノ自家免疫元ハ住吉氏法ニ依リ結核菌ヲ分離培養ニ成功スルニヨリテノミ達シ得ベシト信ジタリ然ルニ在來ノ培養基ニテハ未ダ完全ヲ期シ難シ Giplerkartoffel 培養基ハ非常ニ優秀ナル培養基ナレドモ本邦ニ於テ之ヲ得ル途ナシ、然ルニ Petraguani 氏使用ノマラヒット、グリューン加ノ培養基コソ理想的價値ヲ有スルコトヲ實驗ニ於テ知リ得タリ、余ガ試用以來今日ニ至ル迄、約二年間百六十種ノ喀痰ヨリ純粹培養ニ應用シテ未ダ一回ノ陰性ノ成績ヲ得シコトナク常ニ一〇〇%陽性ヲ示セリ。ソノ培養基ノ製法ハ結核九卷一號住吉式結核菌分離培養法ヲ參照ス可シ。

扨余等ハ如何ナル種類ノ免疫元ヲ作ラントスルカ。余等ハ鳥潟博士ノ「インペヂン」現象ヲ信ジ從ッテ之ヲ「コクチゲーン」ノ型ニテ免疫元ヲ作リタリ、ソノ理由次ノ如シ。余等ハ全ク學界ノ閥ヲ離レ自由ニ種々ノ業績ヲ檢討シ得ルモノニシテ從ッテ細菌製劑ニ於テモ此ノ意味ニヨリ忌憚ナキ批評ヲナス自由ト權利トヲ有ス。此ノ意味ニヨリ余ハ臨牀家トシテ鳥潟博士ノ「コクチゲーン」ヲ推稱スルモノナリ。

説者曰ク、象牙ノ塔ニアルモノハ常ニ白紙ニシテ何等ノ閥モナク自由ニ公平ニ檢討モナシ批判モナスモノナリト、然リ然ラザル可カラズ。然ルニ少數ノ自家陶醉者ノ存スルアリテ、先ヅ他人ノ業績ニ對シ狐疑ノ眼ヲ以テ之ヲ迎ヘ否定セン爲メニ論難シ、反對セン爲メニ反對シ自己以外ニ學者ナキモノ、如ク振舞ヒ、

他人ノ創作的名譽ヲ顧ザルノミナラズ反對ニ之ヲ傷ケルガ如キ不德義漢ノ存スルヲ如何ニセシ、例令大シタ業績ニ非ザルニセヨ他人ノ創作ニハ絶大ナル敬意ヲ表シ推稱ヲオシマザル白人ノ心コソ床シク感ズ。

余等臨牀家ハ常ニカヽル細菌製劑ニハ常ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒツヽアルモノナリ「ツベルクリン」劑「AO」等ハ多ク臨牀的ニ用ヒシノミナラズ動物實驗モ行ヒタルモ、發表シ得ル程ノ成績ヲ得ズ唯「コクチゲーン」ノミハ見ル可キ成績アルモノヽ如ク思ハレ好ンデ「コクチゲーン」ヲ用ヒツヽアリタリ、然ルニ昭和五年末了昭和六年初メニ於ケル流行性感冒ハ毒勢ハ左程强大ナラザリシモソノ蔓延ハ可ナリ大ニシテ阪地ニ於テハ一家ニ四五人ノ臥牀患者ヲ見ルコトハ稀ナラズ、カヽル流行病ノアル場合ニハ余等ノ病院ニ於テハ從業員一般ニ豫防注射ヲナスヲ習慣トス然ルニ本流感ニハ「コクチゲーン」ノ豫防注射ハ行ヒタリ。然シテ注射ヲ怠リシハ斯ク云フ著者一人ナリ然ルニ病院從業員全部ガ殆ンド健全ニ或ハ感染シタル二三人モ極ク輕症ナリシニ反シ著者ハ一人ノミ可ナリ重症ナル流行性感冒ニ罹リタリキ。茲ニ於テ「コクチゲーン」ノ效果ヲ如實ニ認メ得タリ、然シテ余等ノ恩師細菌衞生學敎授T博士ヲ訪ヒ「コクチゲーン」ニ對スル專門家トシテノ忌憚ナキ批評ヲ聽キ益〻之ヲ信ジ茲ニ余ハ余ノ培養法ニテ得タル結核菌ヲ以テ「コクチゲーン」ヲ作リ自家「コクチゲーン」卽チ「アウトインムニゲーン」(Autoimmunigen)ト命名シテ治療的效果アリシヲ實驗セントス。

二　豫備實驗

「コクチゲーン」ハスデニ動物實驗等ヲ繰リ返サレテソノ效果アルコト及副作用少キコトヲ發表サレタリ人體ニ於テモ副作用少キコトハ余モ之ヲ認ムル處ナレドモ余ノ「アウトインムニゲーン」ハ鳥潟博士等ト異ナリ皮內ニ注射スルガ爲メ特異ナル副作用ナキカヲ確ムル爲メ余ノ外來患者ニシテ本療法ニ尤モ理解アル醫學士ニ之ヲ用フルコト、セリ、法ノ如クソノ患者ノ喀痰ヨリ結核菌ヲ培養シ得タル純粹培養結核菌集落ヲ集メテ鳥潟氏法ニ從ヒ「アウトインムニゲーン」ヲ製ス。

最初〇・二瓩ヲ左上膊外側皮內ニ注射ス、本患者ハ熱型七度四五分ニシテ左胸全般ニ亙リ廣汎ナル混合型浸潤及右上葉混合型浸潤アリ左胸肋膜全般ニ癒著存シテ氣胸療法ニ適セズ。

注射後三十時間位ニテ惡寒發熱三十九度ニ及ビ頭重頭痛不快眩暈感ヲ訴フ二日間ニテ熱七度三四分トナル注射部ハ腫脹發赤甚シク大丘狀疹ヲ呈ス、第二回注射ヲ右上膊外側皮內ニ行フ、局所ハ前面ノ半バ位腫脹シ熱モ三十七度八分ナリ。

三回注射ヨリ反應著シク減少シ氣分モ爽快トナル七八回注射ヲ連續シ全ク下熱シテ氣分益〻良好トナル然ルニ第一回ノ注射部尚腫脹ヲ殘ス他ノ注射部ハ殆ンド何等痕跡ヲ留メズ、第一回注射部ノ中心部ノ皮膚脱落シテ小ナル潰瘍ヲ作ル。ソノ潰瘍全治迄ニハ約三ケ月ヲ經過セリ、扠〇・四――〇・五ノ皮内注射ヲ連續セシモ約三十四回注射ノ後、〇・七ニニ達ス然ルニ發熱三十七度四分不快感ヲ來シ右上葉ニハ僅カナレドモ囉音ヲ聽取シ炎症ノ再燃カト思ハシム。早速注射量〇・三ト減ジ數日間ニテ又元ノ如ク元氣恢復シ次第ニ體重増シ三十九瓩ヨリ四十三瓩ト増加ス。全ク快癒感ヲ以テ目下醫業ニ從事セリ。

ソノ患者ハ罹患以來種々ノ「ワクチン」劑ヲ使用セシニ反應過劇ニテ用フルヲ得ズ時ニ喀血ヲナス傾アリタリ。此ノ「アウトインムニゲーン」ニテ初メテ連續使用シ得テ偉效ヲ見タリト云フ。

本豫備試驗ニヨリ「アウトインムニゲーン」ノ偉效アルヲ知リ之ヲ愈〻多數ノ患者ニ應用セントス又〇・七ト云フ大量ハ餘リニ反應强ク治療ニハ不適當ナリト認ム。

三　「アウトインムニゲーン」ノ製法

先ヅ患者ノ喀痰ヲ採リ、之ヲ一〇%ノ硫酸水中ニ入レヨク振盪シテ混和シテ二三十分間靜置シ、遠心沈澱ヲナシソノ沈査ヲペトラニー氏培養基上ニ培養ス綿栓ヲナシ管口ヲ「パラフィン」ニテ封ズ孵卵器内ニ納メテ觀察ス、約三週間後ニハ大抵純粹培養ヲ得、四週間ヲ經テ培養集落ヲカキ集メテ一・〇瓩ノ生理的食鹽水ニ對シ二瓩ノ割合ニ菌液ヲ作リ攝氏百度ニテ沸騰シツヽ、重湯煎上ニテ三十分間加熱ス、此ノ煮沸セシ菌液ヲ陶土濾過器ニテ濾過シテ得タル液ニシテソノ性ハ微「アルカリ」性反應ニシテ芳香ヲ有ス。

普通此ノ中ニ〇・五%ノ割合ニ石炭酸ヲ加フ三十分間百度ニテ加溫スルハ鳥潟博士ノ「インペチン」學説ニ基クモノナリ。

茲ニ出來上リシ後ハ卽チ「アウトインムニゲーン」ナリ卽微量ノ石炭酸ヲ加ヘテ後ノ性ハ略〻中性ヲ示ス。

四　注射部及ビ用量

結核ノ免疫ハ往時コッホ氏ノ舊「ツベルクリン」發見ニアリソノ效果ニ大ナル疑問ヲ生ジ、ソノ所期ノ結果ヲ納メ得ザルニ端ヲ發シ或ハ舊「ツベルクリン」ノ十萬倍稀薄液ヲ用ヒテ漸次增量セント試ミシモノ、效果依然承認シ難シ爲メニ種々ナル「ワクチン」劑ノ出現ヲ見タリ新「ツベルクリン」最新「ツベルクリン」無蛋白「ツベルクリン」等ニナリ依然ソノ效果著明ナラザルヲ以テポンドルフ氏ハ皮膚亂切ニヨリ舊「ツベルクリン」ヲ皮内ニ作用セシメント企テタリソノ成績

ハ稍〻見ル可キモノ存ストナシ本邦ニ於テモ之ヲ追試セシ者多シ今村博士、仲田氏等ハ之ガ動物實驗ヲナシ多クノ試驗動物屍解剖ニヨリ稍〻ソノ成績見ル可キモノアリトナス、然シソノ方法ハ患者ニトリ可ナリノ苦痛ヲ與フルモノナリ、モーロー氏ハ「エクテビン」ヲ創製シテ之ヲ結核小兒ノ皮內ニ作用セシメントセリ、チューリッヒ醫科大學プロッホ氏ハ有名ナル皮膚免疫發生說ノ支持者ナリ內科學ノ泰斗ザーリー氏モ同樣ノ說ノ下ニアル人ナリレーヴェンスタイン教授ハ結核菌乳劑「デルセッビン」ヲ創製シテ皮內免疫說ヲ如質ニ證明シツヽアリ。近時結核ナラザル「ヂフテリー」ニ於テモ皮內免疫說ヲ高調シ之ガ發表ヲナシツヽアリ。余モ先ニ之ニ傚ヒ結核菌乳劑ヲ創製シテ發表セシモ未ダ諸大家ノ認ムル域ニ達セズ。

以上ノ如ク余ハ皮膚抗體發生說ニハ可ナリノ理解ト興味トヲ以テ研究ヲナシタリ、茲ニ於テ余ノ創作セシ「アウトインムニゲーン」モ皮內注射ヲナスコトヽセリ。

今牧博士ノ云ヘル如ク〇・一―七・〇ノ大量ヲ使用セシト雖モ余等ノ皮內注射ニ於テハ斯ル大量ヲ用フルコトヲ得ズ。最初〇・〇二―〇・一ヲ上膊外側ノ皮內ニ注射スルヲ例トナス二乃至四日間隔ヲ置キテ次第ニ增量シテ注射ス。〇・三―〇・四ニ達ス可シ二ケ月ヲ以テ一「クール」トナス。反應ノ著明ナラザルモノニハ隔日ニ注射ヲナスモ可ナリ何等ノ害ヲ見ズ。

五　「アウトインムニゲーン」ノ人體ニ及ボス影響

余ハ余ノ經營スル住吉內科病院ノ入院及外來患者ニ之ヲ應用セシモノニシテ入院患者ハ余等ノ推稱シツヽアル人工氣胸療法ノ實施シ難キ患者ノミヲ選ビ之ニ本療法ヲナセリ外來患者ニシテ開放性結核患者モ亦本療法ヲ應用スルコトヽセリ。最モ咳嗽、喀痰多ク發熱モアル患者ニハ試驗中ノ本「インムニゲーン」注射ノミヲ行フコトハ餘リニ冒險ナレバ內科的ニ鎭咳祛痰劑ニ少量ノ「ビラミドン」ヲ應用セルコトハ勿論ナルモ、大シタ自覺的症狀ナキ患者ニアリテハ唯注射ノミヲ行フコトヽセリ。

A　局所反應

前述ノ如ク第一回ノ注射ハ上膊外側皮內ニ行フ患者ノ一般狀態ニアリテ注射量ヲ適宜ニ定ムルコトヽセリ。羸瘦セル可ナリ高熱ノアル所謂滲出型ノモノニハ〇・〇二位ノ小量注射ヲナシ一般狀態良好ニテ榮養良ク病勢モ慢性ノ經過ヲ止ム

ルモノニハ第一回ニ〇・一ヲ注射スルコト、トシソノ中間ノモノハ各人ソノ場合ノ狀態ニヨリ〇・〇五、〇・〇七等ト定ムルコト、セリ、第二回注射ハ第一回注射ノ模樣ニヨリ增減スルコト、セリ。第一回ノ局所ニ於ケル變化ハ次ノ如シ。

(一)痂皮、(二)小丘狀疹、(三)水泡疹、(四)中丘狀疹、(五)大丘狀疹。

ト分類シ得ベシ、大丘狀疹反應ヲ見セルモノハ注射部位ノ腫脹、發赤著明ニシテ可ナリノ疼痛ヲ伴ヒソノ周圍ノ皮膚モ亦多少ノ腫脹ヲ伴ヒ甚シキニ至リテハ丘疹ノ尖端部ニ膿瘍ヲ作リ一乃至二週間後ニ至リ皮膚ノ脫落ト共ニ潰瘍ヲ殘スソノ潰瘍ハ一乃至三ケ月ノ經過ヲトリテ治癒ニ赴クモノナリ、然ルニ此ノ大丘狀疹反應ヲ呈シタル場合ニ於ケル次回注射部ノ反應ハ多クハ甚シク緩解シテ中丘狀疹反應ヲ呈スル位トナリ次第ニ局所反應減少ス。

中丘狀疹反應ハ前者ハ局所反應輕度ナルモノニシテ最モ多シ水泡疹ニ至リテハ非常ニ稀ナル反應ニシテ吾人ハ今日ニ至ル迄僅ニ一例ヲ見タルノミ注射部ガ翌日ニ至リ拇指頭大ノ水泡ヲ生ズルモノニシテ局所ニ可ナリノ疼痛ヲ訴フ二三日ヨリ水泡破壞シテ終ニ痂皮ヲ作リ治癒ニ傾ク小丘狀疹ハ殆ンド局所ニ小ナル丘狀ヲ作ルノミニテ何ノ苦痛モ伴ハズ。

痂皮發生ハ注射ノ翌日ニ局所ニ痂皮ヲ作ル。

以上ノ如キ局所反應ヲ五ツノ階級ニ分類シ得ル。

斯ル局所反應ヲ見ルコトハ恰モ舊「ツベルクリン」ヲ以テスル「ピルケー」反應ト相似タルノ故ヲ以テ此ノ局所反應ト赤血球沈降速度トノ關係ヲ對照スルコトハソノ豫後ヲトスル一助トナルヲ思ヒ各局所反應ト赤血球沈降速度トヲ對照シ、之ニ全身反應ヲ加ヘ、病勢及患者ノ喀痰ノ「ガフキー」表ヲ對照セルヲ第一表トシテ揭グ。

尚經過モ併セ表シタレバ一目ソノ關係瞭然タラシム。

No.	患者名	病勢	ガフキー表	局所反應	全身反應	沈降速度 一時間	沈降速度 二時間	沈降速度 二十四時間	經過
1	[redacted]某	健康狀	一號表	小丘狀	無	2	12	90	好良
2	[redacted]某	慢性	二號表	小丘狀	六分高熱	5	25	82	好良
3	[redacted]某	亞急性	三號表	中丘狀	三分高熱	11	33	96	好良
4	[redacted]某	慢性	一號表	痂皮	無	4	11	78	好良

5	[redacted]某	慢性	三號表	中丘狀	二度發熱	65	92	112	好良
6	[redacted]某	慢性	二號表	水泡	一度一分發熱	20	42	91	不變
7	[redacted]某	慢性	三號表	小丘狀	無シ	10	31	95	好良
8	[redacted]某	慢性	二號表	小丘狀	無シ	5	27	110	好良
9	[redacted]某	亞急性	一號表	小丘狀	四分發熱	45	89	135	好良
10	[redacted]某	健康狀	一號表	小丘狀	無シ	3	6	42	好良
11	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	三分發熱	90	108	126	自然氣胸併發死
12	[redacted]某	急性	七號表	中丘狀	三分發熱	90	106	124	死
13	[redacted]某	慢性	二號表	中丘狀	四分發熱	42	76	124	良好
14	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	四分發熱	68	99	122	流感併發死
15	[redacted]某	亞急性	二號表	中丘狀	五分發熱	30	63	114	良好
16	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	一度三分發熱	84	103	124	不變
17	[redacted]某	慢性	二號表	中丘狀	七分發熱	38	81	114	良好
18	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	二度發熱	91	110	137	良好
19	[redacted]某	急性	七號表	大丘狀	八分發熱	69	105	141	不良
20	[redacted]某	亞急性	六號表	中丘狀	三分發熱	40	76	116	良好
21	[redacted]女	亞急性	三號表	大丘狀	一度發熱	74	111	160	良好ナルモ疑シ
22	[redacted]某	慢性	二號表	中丘狀	五分發熱	57	83	115	不變
23	[redacted]某	慢性	二號表	中丘狀	二分發熱	65	·90	125	好良
24	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	一度二分發熱	89	105	121	死

25	[redacted]某	亞急性	三號表	大丘狀	一度七分發熱	92	105	131	好良
26	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	一度六分發熱	112	130	143	死
27	[redacted]某	亞急性	六號表	大丘狀	四分發熱	71	88	123	腎臟結核死
28	[redacted]某	慢性	一號表	小丘狀	無シ	81	103	141	好良
29	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	一度發熱	89	110	130	好良
30	[redacted]某	亞急性	三號表	大丘狀	九分發熱	85	113	125	好良
31	[redacted]某	慢性	五號表	中丘狀	無シ	27	47	115	好良
32	[redacted]某	慢性	三號表	中丘狀	四分發熱	46	85	129	好良
33	[redacted]某	亞急性	五號表	中丘狀	五分發熱	19	41	99	好良
34	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	六分發熱	85	111	129	好良
35	[redacted]某	亞急性	四號表	中丘狀	七分發熱	49	70	111	好良
36	[redacted]某	亞急性	六號表	小丘狀	無シ	72	111	125	好良
37	[redacted]某	亞急性	六號表	大丘狀	無シ	49	78	120	好良
38	[redacted]某	慢性	二號表	中丘狀	四分發熱	85	108	128	好良
39	[redacted]某	亞急性	五號表	中丘狀	二分發熱	97	110	128	好良
40	[redacted]女	慢性	一號表	大丘狀	六分發熱	38	82	111	好良
41	[redacted]某	亞急性	三號表	大丘狀	五分發熱	46	85	129	好良
42	[redacted]某	慢性	二號表	大丘狀	二度發熱	15	48	89	好良
43	[redacted]某	慢性	二號表	大丘狀	五分發熱	22	62	95	好良
44	[redacted]某	亞急性	五號表	大丘狀	八分發熱	65	85	120	好良

表中全身反應ノ部ニ於テ何度何分トノミ明示セルハソノ患者ガ普通ノ熱ヨリ注射ニヨリ上昇セシ波ヲ示セルモノニシテ、假令バアル患者ノ熱型ガ最高七度五分ヲ示ストスル注射ニヨリ翌日七度九分ヲ示セバ、ソノ差四分ヲ注射ノ爲メノ反應熱ト認メ全身反應ノ部ニ四分高熱或ハ四分發熱ト記セリ、ソノ他ノ全身反應、頭痛、頭重、倦怠氣分ノ不良ナル等ノコトハ熱ニ比例シテ多寡アルモノナレバ特ニ記サズ。沈降速度ハ「アウトインムニゲーン」療法ヲ行フ前日ノ速度ヲ示セリ。

以上ノ成績ヲ通覽スル時ニハ小丘狀反應ヲ局所ニ呈シタルモノハ赤血球ノ沈降速度緩徐ニシテソノ豫後モ至極好良ナルヲ認ム、痂皮ヲ作ルモノニアリテモ同樣ニシテ非常ナル慢性ノ硬化ニ傾ケルモノナリ、表中[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]等ナリ、[redacted]某ハ臨牀上可ナリノ病竈ヲ有スルモノソノ經過非常ニ長クシテ、「レントゲン」透視上硬化性ノ浸潤ナルモ小指頭大ノ空洞ヲ有シ時ニ喀血スルモ豫後良シ沈降速度モ緩徐ナリ。

[redacted]某モ左鎖骨下窩ニ小空洞ヲ存シ血痰ヲ出スモ硬化性ナリ[redacted]、[redacted]、[redacted]ノ三者ハ小丘狀反應ナルニ拘ラズ赤血球沈降速度可ナリ迅速ナリ從ツテソノ經過好良ナリシモソレ迄ニ到達スルハ可ナリノ長キ經過ヲ辿リタリ而シテ好良ニ向フト同時ニ沈降速度又遲延スルニ傾キタリ。

大丘狀反應ヲ呈スルモノニシテ赤血球沈降速度ハ非常ニ速ナルモノハ急性ナル病變アルコトヲ示ス殊ニ二時間後ニ於テ沈降速度可ナリ高キ數字ヲ示スモノニシテ大丘狀反應ヲ呈スルモノハ豫後重大ナリ、表中[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]女、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]等ナリ中[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]等ノ死ノ轉歸ヲトリ[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]等ハ二回三回ノ沈降速度次第ニ緩徐トナリ從テ其豫後モ良好トナル[redacted]某、[redacted]女ハ沈降速度變化ヲ認メザルモ一般ノ經過良好ナリ、然ルニ大丘狀疹反應ヲ呈スルモノニテ然モ赤血球ノ速度ノ緩徐トナルモノハ例令局所反應及全身反應强烈ナル場合アルモ一般ニ其豫後良好ナルモノ、如シ。表中[redacted]、[redacted]女、[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某ハ注射局所ニ著明ナル反應アリテ拇指頭大ノ發赤アリ其周緣ニハ浮腫セル鷄卵大ノ暈ヲ生ジタリ然ルニ其赤血球ノ沈降速度前述ノモノ、如ク迅速ナラズ從テ其經過モ良好ニシテ一般狀態亦良好ナリ、中丘狀反應ヲ呈シタルモ

ノニシテ沈降速度ノ緩徐ナルモノ[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某氏等ハ其豫後好轉ス。[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某、[redacted]某ハ中丘狀疹ナレドモ沈降速度可ナリ迅速ナリ從テ其豫後良好ナリシモ經過ハ非常ニ遲々タリシナリ[redacted]某ハ反對側下葉ニ囉音ヲ聽取シ可ナリ其經過ヲ心配セシモ次第ニ良好ニ向ヒ、[redacted]某ハ前例同樣ニテ反對側ノ病竈再燃シタルモ遲レ乍ラ次第ニ良好ニ向フ。

十二番[redacted]某ハ兩側ニ可ナリ廣汎ナル病竈存ス。

然ルニ「アウトインムニゲーン」ニヨリ僅ニ三分發熱シタルノミニシテ局所ニ中丘狀反應ヲ呈ス然モ沈降速度ハ可ナリ速ナリ。

一時輕快ノ道程ヲタドリタルモ餘リニ一般狀態惡シク終ニ死亡ノ轉歸ヲトル。

以上ノ如ク注射部ニ現レル皮膚反應トソノ患者ノ赤血球沈降速度トノ間ニアル關係存スルモノヽ如シ。皮膚反應僅少ニシテ沈降速度緩徐ナルモノハソノ豫後良ナリ。皮膚反應强烈ニシテ沈降速度ハ速ナルモノハ豫後疑ハシ皮膿反應强烈ナルモ沈降速度ノ稍ヽ緩徐ナルモノハ長キ經過ノ後好轉シ居ル希望存ス。

B　全身反應

全身反應ハ局所反應ト略ヽ一致スルモノナリ大丘狀疹反應ヲ呈スルモノハ全身反應モ强烈ニシテ發熱三十八―三十九度ニ達スルコトアリ惡寒ヲ前驅スルコトアリ是等ノ點ハ全ク烏瀉氏ノ「コクチゲーン」ニ見ザル所ナリ從ツテ發熱ヲ伴フ爲メ頭痛眩暈、不快、嘔心、倦怠ヲ伴フ、熱ノ下向スルニ從ヒ一般ノ狀態モ亦好良ニ向フ、第二回注射ノ際ハ局所反應ヲ減少スル爲メ全身反應モ之ニ從フモノナリ。

中丘狀疹ヲ作ル場合及水泡疹ヲ形成スル場合ハ何レモ七度五六分ノ發熱ヲ伴ヒ熱ニ比シテハソノ全身症狀多シ卽チ可ナリノ不機嫌ト頭痛頭重トヲ訴フ。

大抵二三回注射ノ持續ニヨリ是等ノ頭痛、頭重感ハ消失スルモノナリ。

痂皮形成及小丘狀疹ノ時ニハ殆ド全身反應ヲ見ズ卽チ「インムニゲーン」ノ注射ニヨリ何等ノ反應ヲ呈セズ。

C　體重增加

注射中ハ次第ニ食慾亢進スルモノ、如シ、ソノ結果トシテ體重ノ增加ハ著明ニ認ムル次第ニ體重ノ增加スル場合モアレドモ、アル回數注射ノ後突然體重ノ增加ヲ來ス場合モ存ス。多クノ場合ニ次第ニ體重增加ヲ見ルモ、重症結核ニ於テハシカリ體重ノ增加ヲ見ザル場合モ存ス。

D　他覺的變化

他覺的變化ニ關シテハ左程著明ノ變化ヲ認メザルモ概シテ囉音ハ減少スルノ傾アルモノナリ、然レドモソノ個人ニ過量ノ注射ヲナス場合ニハ反ツテ囉音ノ增加スル場合モ實際ニ認メ得タリ故ニ用量ヲ常ニ注意シテ全身反應ノ强カラザル樣心掛ケル時ニハ他覺的ニモ次第ニ良好ニ向フ場合多シ、

E　ソノ他

結核患者ハ常ニ精神的ニ焦燥シテ落チ附カズ神經過敏ニシテ常ニ煩悶シツヽアル者多キハ止ムヲ得ザル可シ。然ルニ本劑ノ運用ニヨリ次第ニ下熱ニ向ヒ體重增加ト云フ患者ニ對シテハ積極的ノ好轉ニヨリ患者ハ安心スル爲メニ患者ノ自覺心ヲ平靜ニ導ク可シ爲メニ心悸亢進等モ除去サレ得ルモノナリ卽チ患者ハ焦慮ヲ除キ安神スル樣ニナルモノナリ。

六　各個人ノ例證ニ就テ

第一例　[redacted]　十八歲

發病　昭和五年八月二十日頃ニシテ呼吸困難、咳嗽、喀痰日甫熱ヲ訴フ、同年九月八日入院ス。

臨牀的所見

右胸上葉部打音短、呼吸音鋭ニシテ小水泡音多數聽取下部ハ打音濁ニシテ呼吸音弱ナリ、右胸部鎖骨下部打音短ニシテ水泡音存ス削痩シテ貧血セリ。

「レントゲン」所見

右肺上中葉(殊ニ上葉)高級滲出型浸潤鎖骨下窩空洞。兩肋膜葉ノ癒著アリタメニ運動鈍。

右肺上葉肺門鎖骨間ニ滲出型及ビ混合型ノ小ナル浸潤アリ運動稍〻鈍ナリ。

九月十五日喀痰檢査ガフキー五號表ヲ呈ス前記ノ通リペトラニー氏培養基ニ五本培養ス、十六日目ニ一本、二十八日目ニ一本、二十一日目ニ三本ノ結核菌ノ

純粋培養ヲ得タリ法ノ如ク「アウトインムニゲーン」ヲ作製シテ之レヲ右上膊皮内ニ注射セリ。第一回〇・二瓩注射セシニ小指頭大ニ腫脹シテ發赤セリ第二回モ同樣ニテ反應少シ、第三回〇・五瓩注射セシニ惡寒アリテ發熱三十九度以上ニ達ス局所モ亦腫脹發赤強ク拇指頭大トナリ次第ニ下熱ス、ソノ後ハ〇・五瓩宛注射ヲ皮内ニ行フ、熱ノ高低少クナク次第ニ經過良好ニ向フ體重モ五〇、四四八、四ニ減少シタルモ次第ニ恢復シテ五三、八増量ス入院當時顏面蒼白貧血性ナリシ、退院時ニ於テハ紅潮セル元氣ラシキ狀態トナリタリ。本例ハ〇・五瓩注射シテ反應強烈ナリシモ一回ノミニテ續行中ハ殆ド大シタ反應ナク經過セリ注射十六回ニテ平熱トナル。

第二例　[redacted]　二十七年

昭和六年二月中旬突然喀血ス、ソノ後發熱常ニ存シ七度七八分ヨリ八度五分ヲ上下スル咳嗽・喀痰モ伴フ次第ニ衰弱加ハル如シ。

臨牀的ニハ左上葉打音短ニシテ呼吸音鋭、且ツ中小水泡音ヲ多數ニ聽ス。

「レントゲン」撮影ニヨリ左上葉滲出型浸潤ヲ認ム。

右側ハ輕度ノ浸潤ヲ認ム。

喀痰ガフキー四號表、五本培養ス、二十一日目ニ「アウトインムニーゲン」ヲ製作ス。

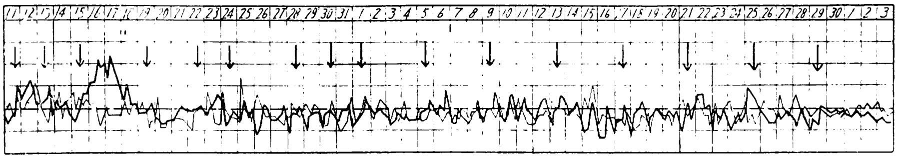
三月一日第一回ノ注射〇・二瓩局所反應可ナリ著明ニシテ約一錢銅貨大ニ腫脹發赤ス、第五回ノ注射時ニハ注射量〇・五瓩注射時ニハ反應強ク發熱八度六分ニ達スルモ次回ヨリハ次第ニ下熱ニ傾ク、六回以後ハ全ク反應性發熱ナク經過セリ、本例ニ於テ特ニ注目ス可キ點ハ注射日ニハ發熱セズシテ反ツテ翌日ノ午後ノ檢溫ノ際高熱ヲ認ム、次第ニ良好トナリ體重モ亦三瓩増加ス、本例ノ如ク注射翌日ノ發熱ハ「アウトインムニゲーン」注射ニ多ク見ル例ナリ。

第三例　[redacted]　三十四歳

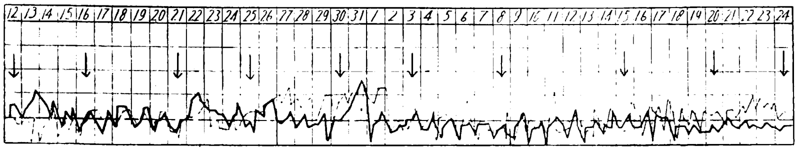
約十一年前ヨリ肺尖加答兒ニカヽル次第ニ増惡スル爲メ種々ノ手當ヲナスモ好良トナラズ増惡ス、咳嗽、喀痰多ク日哺熱アリ衰弱モ可ナリ存ス。

榮養不良貧血ス胸部左鎖骨下部ヨリ乳房附近迄囉音多數アリ打音著シク短ナリ右鎖骨下窩ニ僅ニ囉音存

第一熱型



第二熱型



ス。

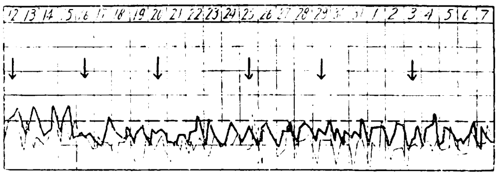
「レントゲン」撮影　左高度ノ浸潤ハ混合型ナリ。

鎖骨下部ニ胼胝狀癒著アリ心臟左ニ扁ス小空洞散在セリ。

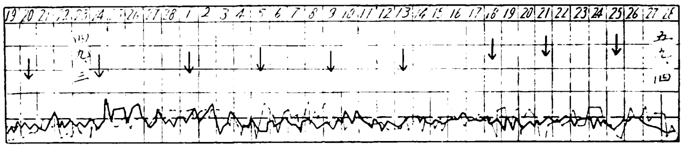
運動不良　右上中葉混合型浸潤アリ鎖骨下ニ大小ノ空洞存ス、第二肋骨部ニ癒著アリ運動鈍ナリ。

例ノ如ク「アウトインムニゲーン」ヲ製ス。

第三熱型



第四熱型



第一回〇・二瓩注射ニ局所發赤著明、拇指頭大トナル發熱ハ僅ニ七度五分ナリ、第二回ノ注射時ニハ發熱ヲ見ズ著明ニ良好ナル經過ヲトリ四週間前後ノ經過ニヨリ四三・九瓩ヨリ五六瓩ト增加セリ、血色モ好良ニ退院後モ注射ヲ續行ス。

然ルニ胸部ノ所見ハ大シタル減少ヲ見ズ、依然左胸部ニ可ナリノ囉音ヲ聽取ス、體重ハ次第ニ增加シ農業ニ從事スルモ之ヘ堪ヘ得。

本例ノ如キハ最初ノ患者ノ榮養ノ不良ナリシ點ト病竈ノ廣範ナルコトヲ考ヘ斯カ輕快ハ著者等ノ想像セザリシ點ナリシ。

第四例　[redacted]　二十八歲

昭和六年一月一　感冒ニ罹リ咳嗽、血痰ヲ出ス可ナリノ高熱ヲ伴フ主治醫ハ喀痰中ニ結核菌陽性ナルヲ發見シ爲メニ本院ニ入院ス。

貧血削疲ス左肺尖及ビ鎖骨下窩ヨリ第二肋間部ニ亙リ小水泡音多數アリ呼吸音氣管枝聲ヲ帶ブ。

「レントゲン」撮影　左上葉ニ相當ニ高度ノ混合型浸潤アリ第二肋骨部ニ癒著ヲ認ム、右中下葉ニ輕度ノ浸潤並ニ氣管枝周圍炎アリ。

法ニ從ヒ「アウトインムニゲーン」ヲ製シテ皮内ニ注射ス局所反應著明ニシテ發熱ハ少シ存ス次第ニ反應少クナリ終ニ全身反應ハ無クナル體重增加シ三十四日間ニ十瓩ノ增加ヲ認ム、本例モ注射ノ日ヨリハソノ翌日發熱スルコト多シ。

第五例　[redacted]　三十八歲

昭和五年十二月中旬ヨリ發熱シ咳嗽喀痰多シ。

榮養ハ可良ナルモ毎日七度二三分ノ發熱存ス、左上葉部殊ニ鎖骨下窩ニ相常シテ大中水泡音存ス打音著明ニ短ナリ、右胸部異狀ナシ、「レントゲン」像ハ右上葉高度ノ混合型浸潤竝ニ肋膜炎アリ肋膜肥厚シテ瘢著ス運動不良ナリ又鎖骨ヨリ第三肋骨ニ至ル網狀ノ瘢著ヲ認ム。

右上葉中等度ノ増殖型浸潤アリ。

横隔膜運動不良ナリ。

入院以來安靜ヲ守リタル爲メ「アウトインムニゲーン」ノ出來上ル頃ハ殆ド無熱狀態トナル然ルニ「アウトインムニゲーン」第一回注射ニテ局所ニ大丘狀反應ヲ呈シタルモ全身反應トシテハ氣分不勝ノミニテ發熱セズ。

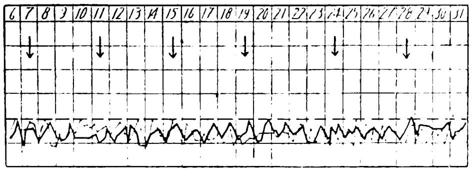
第二回ヨリハ局所ノ反應非常ニ減少セリ好良ニ經過セリ。

亞急性　慢性ノ經過ヲトリ居ル場合ニハ多ク奏效スルヲ認ム(第一表參照)。

島氏以上ノ例證ハ入院加療患者ニシテソノ經過明瞭ニ觀察ヲナシ得タルモノナリ外來患者ニ應用セシ例モ可ナリニ存ス。

經過ハ大同小異ナリ。

第五熱型



[redacted]某　二十三歳

左上葉滲出型浸潤右上中葉混合型浸潤、喉頭結核、未ダ病症ヲ形成セズ。

發熱三十八度五分日甫熱　入院勸告スレドモ經濟的事情ノ爲メナシ得ズ、ガフキー三表ニシテ赤血球沈降速度ハ一時間後六十五、二時間後九十二、二十四時間後百十二ヲ示ス、喀痰アリ例ノ如ク純粹培養ヲ行フ而シテ「アウトインムニゲーム」ヲ作ル。第一回ノ注射〇・二瓩ニテ惡寒發熱アリ三十九度ニ達ス頭痛眩暈アリ三日間ニテ平熱トナル卽チ三十七度七八分トナル左上葉ノ囉音ハ少シク増加セル如シ。第二回目ノ注射ハ三十八度位發熱アリ次第ニ下熱ニ向フ勿論可ナリノ重症ナレバ鎭咳劑、强心劑、健胃劑ノ投藥ハナス、十五回位ノ注射ニテ全ク下熱ス。聲音ノ嘶嗄モ稍ゝ緩解ス體重モ増加ス約三瓩ヲ増ス。然シ少シク療法ヲ怠ル時ハ時ニ發熱ス。目下尙ホ注射續行中。

療治開始以來スデニ一ケ年餘リヲ經タルニ喉頭ノ症狀ノ増惡ヲ見ズ。

[redacted]　二十三歳

左上下葉滲出性結核右上葉モ滲出型結核、喉頭潰瘍ヲ作レル結核。

ガフキー七號　赤血球沈降速度、一時間九十六、二時間百十八、二十四時間百四十一ヲ示ス、三週間ニテ「アウトインムニゲーン」ヲ製作ス。

注射〇・〇二ヲナス、體溫ハ普通三十七度二分ヨリ三十八度五分ノ間ヲ上下ス、注射ニテ九度五分ヲ示ス、次第ニ増量シテ〇・二瓩ニ達ス。喉頭ノ模樣モ一時

緩解セシカト見ラレシニ衰弱ノ爲メ通院セズ。

ソノ他外來ニ於テ行ヒシ慢性、亞急性ノ患者ハ大體ニ於テ經過良好ナリ、增惡セシモノヲ見ズ。

七　考察

吾人ハ結核治療ノ難問題ヲ解決ス可キ幾多ノ業績ヲ誠心誠意感謝ヲ以テ之ニ對スル、佐多博士ノ乾燥菌粉ノ口徑的免疫、カルメット博士ノＢＣＧ、有馬博士ノ「ＡＯ」、額田博士ノ「ヘテロインムニゲーン」等々苦心慘憺ノ跡ヲ見ル。鳥潟博士ノ「インペヂン」現象ニ至リテハソノ著想妙、ソノ眞理ノ深遠ナルコト庸醫ノ容喙ス可カラザルモノアリ、余等ハ唯結核菌ノ純粹培養ニ容易ニ成效スルノ故ヲ以テ鳥潟博士ノ「インペヂン」學說ト結ビ附ケテ玆ニ「アウトインムニゲーン」ヲ製造シテ之ヲソノ菌保有者ニ注射スルコト、ナシ、最モ適切ナル免疫ヲ得ント試ミタリ。鳥潟、今牧兩博士ト異ル點ハ自家免疫元ナルコト、ソノ免疫元ヲ皮內ニ注射シテ皮膚抗體發生說ニ左袒セントスル點ナリ。

皮內注射ニヨリ今牧氏ノ報告トハ全ク異リタル局所反應及全身反應ノ生ズルコトヲ知レリ卽今牧氏ハ皮下或ハ靜脈ニ可ナリノ大量一・〇瓩ヲ注射スルモ大シタ反應ナシトスルモ余等ノ「アウトインムニゲーン」ニテハ〇・二瓩ニテスグニ可ナリノ局所反應及全身反應ノアルコトヲ知レリ然シテ時ニヨレバ病竈ノ反應モ著明ニ顯ハルコトアリ卽チ囉音等ノ增加ヲ來スコトサヘアリ。

カヽル著明ナル反應ハ二囘三囘位ニテ消失ス、注射量ヲ急ニ增量スル時ニ現ハルヽコトモアレドモ大抵ハ平滑ニ經過ス。斯カル反應ノ存スルコトガ免疫元トシテノ價値ノ存スルニ非ザルカヲ思ハシム、局所反應强烈ナル時ニハソノ局所ニ潰瘍ヲ作リ容易ニ消退セザル等ノ原象ヲ明ニ認メ得タリ。

若シ「コクチゲーン」ナルモノガ結核ニ對シ抗體發生ニ役立ツモノナリトスレバ「アウトインムニゲーン」ハ更ニ一層ノ效果アル可ク今村博士ノ云フ如ク「コクチゲーン」ハ舊「ツベルクリン」類似ノモノナリトシテモ、「アウトインムニゲーン」ハ自家舊「ツベルクリン」トモ稱ス可ク更ニ一步進步セシモノト云フヲ得。

然レドモ「アウトインムニゲーン」及ビ「コクチゲーン」ヲ人體ニ使用スル時ハ「ツベルクリン」同樣或ハ類似ノモノナラザ

ルコトハ容易ニ首肯シ得ン。

目下續行中ノ動物實驗ハ果シテ如何ナル結果ヲ示スカ本稿ノ續報ハヤガテ發表スル機會アラン。

總　括

余ノ創案タル「アウトインムニゲーン」結核療法ハ人體ニ對シテハ可ナリノ效果アルモノト認ム、特ニ慢性及亞急性ノ經過ヲトルモノニ對シテハ著效アリ。卽チ硬化性病竈ノアルモノ混合型浸潤ノアルモノ等ニ對シテハ效果多シ滲出型ノ高度ノ浸潤ノアルモノ等ニ對シテハ效果ヲ現ス迄經過ヲ維持シ得ルモノハ輕快ノ轉歸トナリ、赤血球沈降速度モ緩徐ニ傾ク時ハ益〻良好トナルモ、中毒症狀强クシテ一般狀態ノ惡化セルモノニハ效ナシ本劑ノ皮內注射ニヨリ五ツノ階級ニ分チ得ル局所反應ヲ呈ス、然モ注射ノ囘數進ミ快方ニ向フ時ニハソノ局所反應ハ全ク陰性トナルヲ認ム。